

アイユーゴー 通信 第10号

申し込み及び問い合わせ先: **アイユーゴー ~途上国の人と共に~ 事務局**

住所: 590-0432 大阪府泉南郡熊取町小垣内1-10-18 TEL: 072-452-8340 FAX: 072-452-5680 ・ 090-9167-7053 (新田)

振込先: [アイユーゴー ダイヒョウリジ ニッタサチオ]

日本郵政公社: 00980-2-71223 / 三菱東京UFJ銀行阿倍野支店: 6,921,467 / 三井住友銀行佐野支店: 7,260,788

e-mail: snittaskmj0715@yahoo.co.jp homepage: <http://aiyugo.fc2web.com> (設立: 2001/10/15)

発行 新田幸夫 編集 加藤鐘三 中川一之



水を守る

今回はラオスと国内の活動のレポートをします。ラオスの事業地の最大の問題のひとつは乾期対策です。アイユーゴーでは森と農地を守り人々の生活の自立支援の一環として水資源の改良等に取り組んでいます。その中で、昨年11月に中西副代表らがラオスを訪れ貯水池修繕工事を実施しており、工事や技術指導の模様を中西副代表が報告。

その他工事技術者として参加下さった中西工業所の柴田・原両氏の技術指導の感想と、昨年2月調査に同行いただいた高木氏から寄せられたコメントも掲載。

また昨年10月、支援者の輪を広げるため名古屋で開かれたアイユーゴー東海地区発足会の模様を大原理事がレポートしました。

ホエイカー池の修復現場にて、村人と共に(中央: Vサインが中西副代表)



アイユーゴー通信第10号発刊に寄せて

アイユーゴー 代表理事 新田幸夫

アイユーゴー会員の皆様、ご理解とご協力ありがとうございます。様々なNPO、NGOがあるなか、本会の活動役員の特徴の一つを紹介します。それは、働き盛りの男たちが中心に「相互主体」の考えを持っているところです。「自分が主人」は、また、「相手も主人」ということです。やさしい男たちの軍団です。よろしければ、参加してみませんか。

ホエイカー池洪水吐け修繕工事の報告

アイユーゴー副代表 中西 省吾

ラオス・サバナケット県サイフォートン郡ポーソンムホーン村を中心とした自立支援として、アイユーゴーでは2003年より小学校建設、牛銀行、井戸建設、水道施設、植林支援を実施。

この度、サイフォートン郡のナチック村をはじめ4つの村にとって重要なホエイカー池洪水吐け修繕工事を行いました。

昨年2月、現地を現地調査、8月の着工前測量及び工事説明会を経て今回の着工となりました。

日程：2007年11月16日関空発→17日ラオス入り→
23日ラオス発→24日関空着

【11月17日(土)】

早朝のバンコク。まだ新しいスワンナブーム国際空港で国内線に乗り換えドンムアンから空路でウドンターニへ。今度はバスに乗り継ぎ大河メコンを臨む国境の町ノンカイに到着。インドシナ半島を縦断するこの川にかかるミッターバーク(友好橋)を渡って首都ビエンチャンに到着したのは午後遅くになってからだった。市内で工事用具を購入し、現地協力者ヌーペンさんの運転でラオス第2の街サバナケットへ向かった。道中通訳兼協力者のフンペンさんが、「今年村では、雨が降る時期に降らなく稲が枯れた。2回目の稲で何とか収穫する事ができた。」と聞いた。村人が「30年ぶりの干ばつだ。」と嘆いていた。サバナケット35kmの手前のセノウという町で泊まった。

【11月18日(日)】

朝、雷雨で目が覚めた。セノウを午前8時に出て、近くの重機リース店へ向かった。店主は現場まで行かないと運送費がわからないと言うことでホエイカー池に共に行くが、交渉は決裂し、断ることとなった。翌日の他店交渉に備え、その日の内にサバナケットへ向かった。

【11月19日(月)】

サバナケットのゲストハウスを午前8時に出発、2月調査時で会ったカンブーンさんの紹介で重機リース店へ。1台のバックホウ(ラオス語でローチョック)を運転手付きでリースすることに決まった。燃料費・ドラム缶リース料を支払い、重機リース代は現地到着後、村人立会いのもと支払うことにした。そして、鉄筋、セメント、砂、玉石等の価格調査をし、まずはホエイカー池を確認し、明日からの伐採作業の説明の為に村に向かった。

到着したのは午後4時頃だった。シービライさん宅(村唯一の

雑貨店)とヌーカム村長宅に分れてホームステイすることとなった。夕食はシービライさん宅で、皆の再会を祝った。

【11月20日(火)】

翌早朝7時より小学校で4つの村の責任者・技術者・村長など約30人に、池の洪水吐けの修繕と減勢工等の改良の工事説明会を開いた。準備工

(伐採清掃、工事用具作り)仮設工(橋補強・洪水吐け仮締め切り)盛土工(土の敷き均し・締め固め、均しコンクリート、鉄筋加工組立、目地、型枠、水路底コンクリート、水路壁コンクリート等)の作業手順と各機能についても説明をした。また、今までこの村での共同作業について他の村人に伝え、今回の事業がサイホウソン郡全体の技術の向上と自立に役立ってほしいと、今回の目的である我々の思いを伝えた。

伐採作業は工事場所・資材置場・採取土場とローチョックが自走する道路の2班に別れて行った。また、同時に伐採木を利用して丁張杭やたこ締め具(土の突き固めに使用する道具)の作成も行った。

昼食後は、作業の継続と現場の水替え作業をしながらバックホウの到着を待った。午後3時ぐらいにバックホウは2つの川を渡ったとの連絡が入ったので迎えに行った。村人が伐採した道を、まだ残っている木を倒し、さらに道路の凸凹も直しながら進んでいた。道無き道を行くのがバックホウだが、日本ではあまり目にしない光景だけにとにかく驚いた。その日は1km手前までで到着することは

できなかった。夜7時頃、重機リースの社長(キー氏)が村に来たのでリース代を支払った。彼はバックホウの見張りのため重機の近くで野宿をすと言いついて行った。やはり日本とは大切さが違うと実感した。

7時半頃からパーシー(我々の幸せを祈りながら腕に紐を結ぶ)を村人30人ぐらいからしてもらった。皆さん、本当にありがとうございました。

【11月21日(水)】

当初の計画では、今日の午前中に帰る予定であったが、バックホウが1日遅れたので1日遅らせることとなった。ただし、フンペンさんは約束があるからということで、帰ることになった。池で既設橋の補強・盛土の敷き均し・締め固めの作業を説明し、柴田君・原君に指導をお願いした。

午後には再び池に戻った。盛土作業は1時間前に進んでいた。フン



ローチョックによる作業



たこ締めによる土の締め固め状況

ペンさんが居なくなるとコミュニケーションは身振り手振りで、絵を書く、見本を見せる、片言の英語で話す、最後には日本語で話していた。意志疎通に時間はかかった。重機リース店のキーさんは図面が理解できたので助かった。また、ポーンソムホーン村副技術者のバーンさんの理解力と技術力は優れていた。

村での最後の夕食は、アヒルがメインディッシュであった。アヒルの生肉のラップ・血のスープを初めて食べた。たぶん現地だから食べることができたのだろう。食べながら命を頂いている実感が湧いてきた。日本では体験できない感覚だ。喉を通るラオビールが疲れを吹き飛ばした。

(国際ボランティア貯金の寄附金による)

【今回の事業を振り返って】

今回修復した池は、1年を通じて多目的に利用され、特に乾期の時は家畜の水飲み場として重要な池であります。多くの村人が工事に協力をしてくれました。村人は熱心に積極的に取り組みました。その後姿は、村の子供たちに受け継がれていくでしょう。『途上国が自立するには、子供たちへの教育が一番大事。』と言われていましたが、その通りだと思います。そのためには家族が経済的に自立でき、子供たちが安心して学校に通える環境作りが必要です。これからの自立支援は、受動者は受動者、能動者は能動者で在り続けるのではなく、ひとつづくりとまちづくりを行っていく過程の中で、互いが受動者にも能動者にもなり、教え合う関係になれば良いと思います。

池の工事に技術者として参加した 柴田さんと原さん

中西工業所 柴田義弘

ワークキャンプ（排水路修繕工事）を終えて

私達は、この工事における施工の技術指導を行いながら、村の人達と協力し合い作業をしました。日本を出国する前に作業手順などを書いたものを英訳したり、図や絵を作ったりと準備に大変でしたが、現地での説明に役立ちました。

現場では言葉の違いから、なかなかうまく伝えられないものがありました。実際に作業を身振り手振りでラオス語の本を片手に紙に絵を描く等大変苦労しました。その場では「何とかして伝えたい!」、「理解してもらいたい!」という気持ちで無我夢中でした。幸い現地の人達の中に土木経験者がいて、そのお陰もあって作業も順調に

進んだのではないかと思います。

このワークキャンプで、人に伝える難しさ、そして協力し合う大切さを痛感しました。この排水路が完成したら是非、見に行きたいです。



現地の方と打ち合わせをする柴田さん(橙色の服)

大変でしたが、自分にとっていい経験となりました

中西工業所 原 康之

今回で3度目訪問になる私達の目的は、四つの村が生活していくうえで必要な池のほう水路の修繕工事でした。ほう水路というのは、池の水が一定の水位を保つようにする池の水はけ口のことです。雨季にそこからメコン川の魚が上がってきてその池に卵を産み池の魚が増えるようにするためにはこのほう水路の修繕工事が必要なのです。



作業は、一・二日目は村人たちと一緒に伐採作業や土を締め固める「たこ」という道具の作成をし、三日目に重機も現場に着いて具体的に作業を開始しました。重機のオペレーターは大丈夫かなと思ったのですが、思っていた以上に機械を乗りこなしていたので安心しました。「たこ」を使って土を二十センチの厚さで締め固める作業を、村人たちと一緒に行いましたが、言葉が通じないのでジェスチャーで皆に伝えることが大変でした。それでも皆頑張ってくれたので、思った以上に作業は速く進みました。

今回は今までとは違い、皆と作業をしているいろんなことがありましたが、特に言葉が通じないことがすごく大変でした。でも自分にとっていい経験になりました。工事が完成して出来上がりが早く見たいです。

ワークキャンプに参加して

(昨年2月のホエイカー池修繕の調査に同行)

高木裕衣子

ラオスほど、ゆったりと時間が流れ、人と人との関係が素朴で美しい国は、私は他に知りません。日本のように忙しく複雑な社会に生きていると、生きることの意味・素晴らしさを教えられ



る気がします。今回の滞在でも人々の絆の強さやシンプルな暮らしに大変感銘を受けました。私は皆さんのように技術や知識がないので村の発展のためにできることは少ないですが、1人でも多くの人たちとつながり一緒に日々を過ごすことで、子供たちにとっても「特別」で「ちょっといつもと違う」素敵な時間や関係を提供することができたのではないかと思います。もちろん私自身が一番楽しんでいただけですが、一緒に音楽を奏でたり日本料理を作ったり散歩をしたり走ったり。子供たちの純粋な笑顔、それを見守る大人たちの優しい表情は、私の国際協力活動の原点です。

今回のワークキャンプでラオスがまた一段と、大好きで特別な国になりました。私はいつでもラオスに行く準備はできています。またこのような機会があれば声をかけていただければ大変嬉しいです。これからもどうぞよろしく願いいたします。

「水やり文化考」

ラオスでは焼畑農法や山林伐採(焚き木用)により森林が減少しています。残っている雑木林さえも雨季の豪雨により、倒され流される傾向は続いており、保水力不足の土地が増加しています。原因は人口増など他にもいろいろ考えられますが、現地の村人の生活習慣や考え方の影響も少なからずあるようです。

村人の概念

乾期は雨が
ない。

●●●●●

植物栽培は
しない。

●●●●●

「水やり文化」
がない。

与えられた自然以外樹木を育てるとい
う文化がない。

おもしろいでしょう。この地に「水やり文化」がないことは、インドシナの圧倒的な自然の中で暮らして行くうちにラオスの人たちが身につけた生き方、習慣なのかも知れません。

木を育て森を作って生きてきた日本人は「水やり」を当たり前のこととしていますが、ほっておいてもみるみるうちに木が育った国に暮らすラオスの村人は、森や木や植物は与えられるモノという考え方をもっている不思議ではありません。

しかし、森林破壊が進んでしまったいま、森や土地に元気を与えてあげなければいけません。アイユーゴーでは現地の植生に合致したゴムやマンゴーの木の植林活動も行っています。(地球環境基金の助成金による)

ゴム・マンゴーの苗木の配布



アイユーゴー第1回 東海地区会の開催

アイユーゴー理事 大原泰昭

社団法人日本青年会議所 東海地区協議会 GTS2000・GTS2002の合同スタッフ同窓会が昨年10月19日に名古屋で開催されました。

5年前、7年前に同じ目標に向かって活動を共にした、メンバーが集い懐かしく和やかな雰囲気です。会がスタートしました。開

催場所は、名古屋市中区栄にある「サイアムガーデン」というタイ料理の店。この建物は、昭和6年頃に、貿易商を営む加藤商会の本社ビルとして建てられ、昭和10年から昭和20年頃まで、この建物内には、当時のシャム国、現在のタイの領事館(事務所)が置かれたこともある歴史と情緒漂う、洒落たお店でした。

大阪より新田代表にも参加していただき、アイユーゴー東海地区の発足と会員の拡大を目的とし13名のメンバーが集まりました。

GTS2000(塚田委員長)では、ラオスの地を訪れ、GTS2002(大原委員長)では、タイを訪れました。それを縁として、塚田理事・内田理事・加藤理事そして私が本会に入会し、数名のメンバーがアイユーゴーのメンバーとして入会しております。本部が大阪ということで、理事会・イベント等に全て出席



大原理事

することが容易ではありませんが、個々の意識の中で何らかの活動をしたいという想いは持ち続けています。

現在アイユーゴーでは、活動資金を会員の皆様からの会費、寄附金また財団の助成金、募金や啓蒙活動によって賅っていますが、まだまだ組織も脆弱で、地域活動については新田さんの地元である大阪府泉南郡近郊に限られています。東海地区においても、多くの皆様にご協力いただき、愛知・岐阜・三重・静岡のそれぞれの地域で、草の根の啓蒙活動や募金活動などをしていきたいと思ひ、新田代表と塚田理事が話し合い、他の理事にも賛同をいただき東海地区会の発足に至りました。

当日は、新田代表より現在の活動報告と国際協力の意義について挨拶をいただき、続いて塚田理事より、GTS2000で行ったラオス・フォーシー村での水路建設・学校施設改修工事のその後の説明とアイユーゴーとしての活動である流失した橋の建設・小学校の校舎増築の報告があり、私はGTS2002のタイ・メーホーソン県・バンマパー郡での活動から現在の農業研修センター建設・運営といったアイユーゴーでの活動報告をしました。そして、参加者からの自己紹介を兼ねた現況報告がありましたが、その中でGTSをきっかけに変わった国際協力に対する意識の中で、自分のできる事・やるべき事を模索している意見が多く、特にGTSに参加してアイユーゴーに自ら入会した加藤理事の話に皆、感銘を受け、当日はその場で7名の入会者がありました。

今回の第一回目の東海地区会は、GTS2000と2002に参加したメンバー約300名に対してアイユーゴーの活動意義を伝え、資金援助・ワークキャンプへの参加等々、個々にできる活動を呼びかけ、同じ目標に向かって活動した仲間が再度集って、アイユーゴー東海地区として結成することが、最大の目的です。今後、スタッフ会を数回開催し、2008年度春までには、アイユーゴー東海地区としてスタートできると期待しています。

【お詫び】アイユーゴー第10号の発刊が遅くなりまして深くお詫び申し上げます。ホイエカー池改修工事にご協力下さった中西工業所の方々、ワークキャンプにご参加下さった方々に改めてお礼申し上げます。今後とも皆様のご支援ご協力をお願いいたします。